フクロウ

**Ryukyu scops owl / *Otus elegans* / Ryukyu konohazuku / リュウキュウコノハズク**リュウキュウコノハズクは19~22ｃｍほどの小型の品種で、琉球諸島に生息している。奄美大島では、海抜から山頂の森林で目撃されている。オスとメスは外見が似ていて、全体茶色で、黒と黄色のまだら模様がある。顔面は灰色で、その周りに赤茶色の羽があり、耳介状の羽毛は短く、あまり見えない。リュウキュウコノハズクは一夫一婦制で、縄張り意識が強い。巣は木のくぼみに春から夏にかけて作り、繁殖する。英語ではelegant scops owlとも呼ばれる。

**Ryukyu hawk-owl / *Ninox scutulata totogo* / Ryukyu aobazuku / リュウキュウアオバズク**
日本やアジアを渡るフクロウだが、日本南部の島々で生息している。中型のフクロウのアオバズクは体長27～33cmで、顔の縁が明確ではないが、大きな黄色い目をもち、耳介状の羽毛はない。濃い茶色の体には、白い胸と腹に茶色い線が走っている。主に夜行性で、ネズミや爬虫類などの小動物を食べるが、大型の飛翔昆虫も食す。